

# 大会規則及び選手注意事項

1 本大会は、2024年度（財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項及び申し合わせ事項により実施する。

## 2 競技者の招集

- （1）受付時に配布される「記録カード」に必要事項を記入して、招集の際に持参すること。
- （2）トラック競技の招集場所について、150mとハードルは雨天走路、1000mはスタート地点とする。フィールド競技は各種目のピットに集合すること。
- （3）組み分け・レーン・試技順などは、全員の招集が完了したところで、その場で決定する。腰ゼッケンや長距離ゼッケンもその場で配布するので、しっかりと付けること。
- （4）招集は出場できる服装で集合し、係員の指示に従うこと。招集時間の基本は次の通りとする。

		招集開始	招集完了
トラック	予選	招集完了時刻の5分前	タイムテーブル参照
	準決勝		
	決勝		
フィールド	投擲	競技開始 35分前	競技開始 30分前
	跳躍	競技開始 35分前	競技開始 30分前

## 3 三段跳・ジャベリックスローの試技回数

試技回数は3回とする。

## 4 トラック競技

- （1）ゴール後は、自分の記録を確認するために、ゴール地点に残り、役員員の指示に従うこと。
- （2）不正スタートは1回で失格とする。
- （3）不正スタートの不適切行為に関しては、警告（イエローカード）を与えられることがある。

## 5 アスリートビブス

- （1）小中体連指定もしくは高体連指定のアスリートビブスを各自で用意すること。
- （2）アスリートビブスを必ずユニフォームの胸・背両面に着けること。三段跳はどちらか一方でも良い。

## 6 競技用靴

日本陸上競技連盟競技規則TR5に基づいて大会に参加すること。

- （1）スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳は12mm以内とする。いずれの場合も本数は11本以内とし、先端近くで少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。
- （2）厚底シューズに関する規定は以下のとおりである。

種目	最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目	20mm	ジャベリックスローに適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、 800m未満の種目)	20mm	150m、ハードルに適用。
トラック種目 (800m以上の種目)	25mm	1000mに適用。

- (3) WA（国際陸上競技連盟）が承認しているシューズを使用すること。
- (4) アップシューズの中には、規定に触れる厚さのものが市販されているため、失格とならないように事前に確認すること。※例：ジャベリックスローに出場する選手が、アップシューズを履いて試技を行おうとしたが、厚さが20mmを超えているため、その靴では出場できない。など
- (5) 規定外シューズ使用者の扱いについては「失格」とする。競技前に確認した場合は、そのシューズの使用を認めない。ゴール後に規定外のシューズの使用が確認された競技者は失格とする。

## 7 ウォーミングアップ

- (1) ウォーミングアップエリアとして補助競技場、バックストレート、バックスタンド下走路を使用できる。ただし、1000mレース中のバックストレートの使用は禁止とする。
- (2) 雨天走路は三段跳の待機場所及び招集場所となるため、ウォーミングアップのための使用を禁止する。

## 8 記録

- (1) トラック競技では、ゴール後に競技役員から記録が口頭で伝えられるため、競技終了後受け取った記録カードに各自で記録を記入すること。
- (2) フィールド競技では、記録が役員より伝えられるため、競技終了後受け取った記録カードに各自で記録を記入すること。
- (3) 記録の掲示、全体での結果発表等を行わない。

## 9 その他

- (1) 当日の参加人数によって、競技開始時刻や招集完了時間の変更がありうる。その際は、放送にて全体に連絡する。
- (2) スタンドへの入退場の制限については行わない。
- (3) 各チームのベンチは競技場外周辺、メインスタンド下、サイドスタンド・バックスタンドに設営すること。ただし、公園来場者の妨げにならないように注意すること。
- (4) 大会運営のために必要に応じて競技役員より指示が出されたときはそれに従うこと。
- (5) 物品の管理について、各自の責任において紛失・盗難等のないように注意すること。
- (6) ゴミの処理については各校持ち帰りを徹底し、競技場や公園内に残していかないこと。
- (7) 写真撮影を行う際は、TICにて許可証をもらうと共に、撮影に係るルールを必ず守ること。